

必ず良いことがある人のために送る！

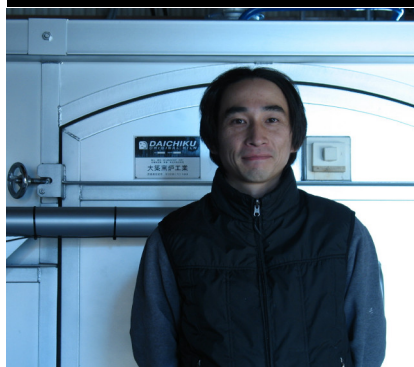
DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

【発行日】2008年11月30日 【発行人】(株)大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

ウラ面も情報満載

■大宿窯 二代目大塚道男氏～益子焼らしい温かみのあるももを守りたい！



【大塚道男さんプロフィール】

昭和45年
大塚二六男の長男として益子に生まれる
平成元年
栃木県立益子高等学校卒業、
作陶を志す
平成2年
京都府立陶工高等技術専門学校成形科卒
平成3年
京都市伝統産業技術者研修 陶磁器コース卒業
平成4年
父、大塚二六男(大宿窯)の元で弟、隆司
(栃木県窯業指導所卒)と共に修業
平成10年
共販センターに於いて初の二人展
●遊び心があって使いやすい器、たくさん
の人達に喜んで頂ける作品作りを目指してい
ます。

■今月、益子町城内坂にある窯元・大宿窯さんに0.8㎡台車式ガス窯を納入致しました。
お父様はご健在・現役ではありますが、陶主とされました大塚道男氏にお聞きいたしまし
た。

【丁寧につくらないと通用しない時代】

■谷口：小さいころの経験や習慣の中で、今のお仕事につながるようなことはありますか？

□大塚：中学・高校から陶器祭りで販売などにかかわっていました。

■谷口：前職は何でしたか？

□大塚：高校卒業後、京都の陶工高等技術専門学校を出て、家業に従事しています。

■谷口：今のお仕事で心に残る出来事は？

□大塚：7、8年前、若手同業者と販路開拓のための補助金申請をしました。なれない書類
づくりや各地を視察したりもしました。特に、申請書や報告書の作成には苦労しました。

■谷口：その後、何か変わったことはありますか？

□大塚：以前は、作れば売れるという時代でしたが、今はお客様が一つひとつじっくり見て
から決められるので、丁寧に作らないと通用しないなあと感じています。お客様の声は自分
にとっても勉強になります。

■谷口：では、お客様からどのようなことを褒められると嬉しいですか？

□大塚：陶器祭りで「この店が一番いい!」と言ってくれた時です。

リピーターさんが来てくれた時も嬉しいです。

■谷口：どんな時にやりがいを感じますか？

□大塚：注文を受けて、その後納品の時に「これならカンペキです」と言われた時です。

丁寧に仕事をするのが大事だと思っています。

■谷口：今の目標や今後やりたいことは何ですか？

□大塚：まず、お客様が使って間違いのないものを使いやすさ第一に考えて造ってゆきたい
です。

それと、益子の伝統を取り入れながら自分らしさを加えて造ってゆきたいと考えています。

■谷口：益子焼に対するこだわりはありますか？

□大塚：益子焼らしい温かみのあるももを守り続けていきたいです。

【大築窯炉の印象】

■谷口：ガス窯についてはどうですか？

□大塚：非常に安定しているし、全体としてコストがかからないのが良いと思います。

また、酸化も還元も両方問題なく焚けるところが良いと思います。

■谷口：大築窯炉のガス窯を選んだ理由は何ですか？

□大塚：アフターを考えると近いほうが良いし、長くお付き合いできると考えて選びました。
益子ではよく使われている印象です。

■谷口：大築窯炉スタッフの仕事ぶりを見てどう感じましたか？

□大塚：たいへん丁寧だと思いました。

■谷口：ありがとうございました。続けて頑張ります。



↑坂の上ギャラリー外観

↓陽光の中、相沢博氏(ガス窯ユーザ)の個展



■ユーザーさんの個展情報■



法坂妙子作陶展

自分が楽しむための器を探す

2008.12.12 (金) ~15 (月)

11:00am~6:00pm

微妙庵&momo-oki

TEL・FAX 029-823-0731

パーティーの器展

2009年11月27日~12月19日

福島県福島市御山字東壁谷沢21

うつわの店 ちゃぶだい

Tel&Fax: 024-554-5910

阿部誠・横山知加子・乙川聡子・本田あつみ



■がんばる陶芸家 ホームページ&ブログ~ユーザー (個人作家) 編

studio

Yukku-Rekku

ゆっくりゆっくり あせらずに 一歩づつ



[about](#) [blog](#) [gallery](#) [shop](#) [link](#)

【スタジオ・ユックリックさんのHP&ブログ】白石さんご夫妻が運営する手作りの絵本陶器のホームページです。ユックリックというキャラクターを通して人に対するやさしさ、愛情、思いやりの気持ちが呼び起こされるような、作品創りを目指しています。(08年10月ガス窯導入)

桃青窯 陶房



【桃青窯・三崎哲郎氏のHP&ブログ】三崎哲郎氏はテレビプロデューサー→病院事務長→52歳から陶芸活動開始という異色の経歴！日本伝統工芸展に2年連続で入選という実力派でもあるから驚き。1m80cm以上の身長からは想像できない繊細な作風を武器に、今年一年で7つもの公募展に出品しごとく入選！精力的に活動中。(98年ガス窯、03年電気窯、07年電気窯導入)



【近藤文さんのHP&ブログ】作家活動をするばかりでなく、リサイクル土や器の資源再利用にも重要性を感じ活動もしている女性陶芸家。「器から器へ」をコンセプトに、廃食器・破損陶磁器を資源として再利用する取り組みを、国内でいち早く成功させた岐阜セラミクス研究所の長谷川善一さんの「リサイクル土と器」についての雑話を県窯業指導所で実施するリーダー的人物。(01年ガス窯導入)

■陶芸羅針盤■陶器と磁器の違いについて・後編/秋元智香

■長石の比率が低い陶器は珪石を溶かさなため、ガラス化せず、光を通すことはありません。私は陶器、磁器ともに作っています。磁器は陶器に比べ焼成前までは非常に弱く、素焼きした後でもちょっとした衝撃でヒビが入ることもあります。素焼き本焼きとも陶器より磁器は高温で焼成します。しかし、素焼きの段階ではまだ陶器のほうが強いです。それは陶器の成分に粘土が多いためです。長石も珪石も溶けない素焼きの段階では粘土の強さだけが頼りなのです。■磁器は焼きあがれば強くなり、叩くと金属音がします。貫入も入らず吸水率も0%に近くなります。ただ磁器は熱いものを入れると熱伝導率が良いため、表面がたいへん熱くなります。冷めやすいのも特徴です。■それに比べ陶器は断熱性や保温性に優れています。それはそれぞれの(素材の)密度の違いであります。陶器の中には細かい気泡があるため、それが断熱効果を高めているのです。陶器は焼成によって大きな変化が楽しめます。温かさや味わいが出やすいのは陶器の方ではないかと思えます。逆に磁器は焼成上で大きな変化は出しにくいのですが、ガラス的に洗練された美しさがあります。■それぞれの特徴や性質を知った上で成形したり使用してみることで陶磁器に対する理解をより深めていただけたらと思います。

参考文献:実践陶磁器の科学・高島廣夫著
やきもの随筆 加藤唐九郎著

【加藤唐九郎の陶器と磁器の違い】

■つくり手である加藤唐九郎は「やきもの随筆」のなかで、陶器と磁器のちがいにについても述べています。「磁器はなるべく薄く作ったほうが人びとに好かれ、厚く作っては嫌われるのに対し、陶器は薄いのは禁物で、あつさが必要なのも対照的だといえるでしょう」。唐九郎はやきものにおもしろい味を出すには陶器のほうが好都合で、茶器などに陶器が多いのはそのためである、と言っています。外観や手触り、作品の質感ばかりでなく、陶器と磁器で人びとがどう感じるかや、原料の調査から歴史的背景に至るまで言及しています。自己満足でやきものをつくるのではなく、多方面からやきものを研究しているのは本当に見習うべき姿勢だと感じます。唐九郎は自分が陶器を作っているから、著書の中では「やきもの」といえば陶器のことだと思っしてほしい、と謙虚に付け加えています。



■編集後記「あとかんげん」■

■4年前の大晦日のことでした。私は年越し蕎麦を食べに行くつもりで国道を走っていると、突然の大雪。なだらかな坂道でも私の車は走行不能。「ああ、最悪。大晦日にまさかこんなことに」なんとか脱出しようと考えましたが、雪をかく道具などはもちろん積んでいません。周りの車も何台か立ち往生。中には木の枝をホウキのようにしてタイヤの雪を取って走ろうとする人もいます、でも全くダメ。携帯電話で知人に連絡する人。レッカー車を呼んでいる人・・・などなど。私も不安がよぎりました「車内年越し」。そこで私はひとつひらめいたっ！「待つのだ！」と。車の外で何か作業をしようと濡れるし、転んで怪我をする危険もある。だから待つ。やむまで。解けるまで。待つしかない！ここは関東地方、にわか雨ならせいぜい1時間、この雪は粒も大きいし、にわか雨のようなもの。ならば、すぐにやむ。ということはすぐに解ける。「そうだ！解けない雪はないのだ！」私は車内で待つことにしました。案の定、30分ほどでみぞれになり、それからすぐに雨になり、道路の雪は解け始めました。そして脱出成功！2009年、未曾有の不況。これは雨です。しかもどしゃぶりの。傘を差して濡れないようにしましょう。いずれやみます。傘をたたむ準備もしておきましょう。必ず晴れる日が来ます。今は、その傘をどうやってたたむか考える時です。■2008年大晦日、ガソリンは200円になっているのでしょうか？